



令和4年度 校長だより

令和4年8月25日(木)

春日の風

No.7

文責 松下 義彦

前期後半を迎えるにあたって

長かった夏休みが終わりました。まずは、みなさんが元気でこの日を迎えてくれたことに感謝をしています。

今年の夏休みは、大変暑さが厳しくて体調管理が難しい毎日でした。みなさんはどのようにしてこの夏休みを過ごしましたか。勉強を一生懸命頑張った人、部活動を一生懸命頑張った人、あるいは日頃できない家の手伝いを一生懸命頑張った人など様々だと思います。また、中には、生活リズムが不規則になり、体調を崩している人もいるかもしれませんが、早く、もとどおりのリズムに戻してこれからの学校生活を頑張ってください。

さて、前期の後半をスタートするにあたり、みなさんに考えてもらいたいことを一つ話します。校長先生は常々、この春日中学校を誰もが「安全安心で楽しい学校」といえるような魅力ある学校したいと考えています。そのためには、先生たちだけが頑張ってもそうは成りません。君たち一人一人の力が必要だと考えています。そこで、みなさんに考えてもらいたいことは、前期前半(4月から夏休み前まで)の間にあなたの周りで、周りの人の心ない言葉や行動で嫌な思いをしている人や何らかの理由で学校に来ていない人がいることに気づいていましたか。ということです。

世の中には、様々な人がいます。悩みを抱えた人や自分とは全く違うものの見方、考え方を持っている人もいます。一人ひとり、受け取り方も違えば、感じ方も違います。

「自分がこう思うのだから、人もこう思うはず」ではなく、みんな違うということ踏まえて行動したり、言葉を発したりすることが大切です。自分のモノサシ(=ものごとを評価する基準)と人のモノサシは違うこと、そして、お互いのモノサシを理解することができるよと人間関係をつくることができます。

ぜひ、お互いのモノサシを見つめるよう心がけて欲しいし、周りの人にもっと関心を持って欲しいと思います。そして、みんなが安心して生活できる楽しい学校をみんなの手で創ってほしいと校長先生は願っています。

みなさんは「花は紅、柳は緑」という言葉を知っていますか。

花は紅く咲き、柳(の枝)は緑色をしています。これは自然そのまま、あたり前のことであり、変えることができない自然の美しさを意味する言葉で、ものにはそれぞれ個性が備わっていることの例えとして使われている言葉でもあります。

私たちは、自分と他の人を比較して、どうにもならないことに思い悩むことがあります。たとえば、他の人と比べてこちらが優れていると感じたときは喜び、逆に劣っていると思えば、焦りや憤りが生じ劣等感に苦しみます。しかし、いくら思ってもどうにもならないことならば、あるがままの自分の姿を受け入れ、そこに自分の輝きを見いだしていこうと、覚悟することが大切です。その輝きこそが真の自分ではないでしょうか。他の人は他の人、自分は自分。決して他の人にはなれないのですから。私はそう思います。

さて、学校ではこれから先、一年生の自然教室、中体連新人大会、合唱コンクールや文化発表会そして生徒会改選が計画されています。さらに三年生はいよいよ進路の選択も近づいてきます。

これからは、集団行動が中心となる行事や取組が多く、一人一人が頑張っていくのはもちろんですが、周りの人と協力するチームワークづくりが大切になると思います。「一人一役全員主役」という気持ちが大切なのではないのでしょうか。三年生は、勉強していて「努力しているけど、なかなか結果にあらわれない」などネガティブ(消極的)な気持ちになることがあります。もちろん、すべてに良い結果は出ないかも知れませんが、努力は決して裏切らないはず。「頑張れば結果は出る」とポジティブ(積極的)に努力を求める人であって欲しいと思っています。

「為せば成る」(=「強い意志」と「あきらめない気持ち」)の精神で前期後半も頑張らしましょう。

